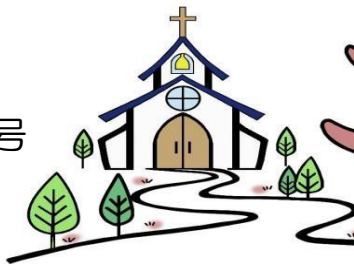


2022年
聖母被昇天号



カトリック笹丘教会ニュース

No.0105

こみち



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7:14)



聖母被昇天の喜び



主任司祭

ペトロ・フランシスコ遠山満

皆様、聖母被昇天のお喜び申し上げます。

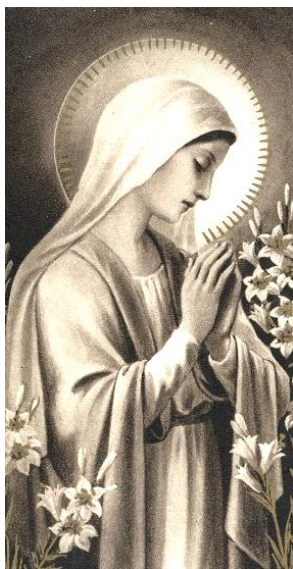
今、世界の中で、様々な問題が起こっています。ロシアによるウクライナ侵攻。それに伴う各地での食糧危機とエネルギー問題。スリランカにおける経済危機。ヨーロッパやアメリカで起こっている山火事。日本を含む各地で、まだ治まっていないコロナウイルスの問題。日本では、コロナウイルスの問題から派生して、他の問題が生じているような気がします。それは、孤独の問題です。

新型コロナウイルスが、私達の人間関係の交わりを阻害している所為でしょうか。最近、電話等で受ける相談の中に「友達がいらない」という相談が増えているような気がします。

何が原因なのか、そのような人たちの話を聴いておりますと、新型コロナウイルスによる人間関係の交わりの減少にも加えて、他にも問題があるような気がしてきます。それは、人間関係において白黒つけたり、切り捨てたりする思いではないかと考えます。勿論、そのような事を相手に直接伝えたりはしませんが。また、教会の中では、転勤によって新しい教会に行ったり、信者同士の間で人間関係のトラブルが有ったりする事によって、孤立してしまう事があります。そのような時、私達は「友達がいらない」と言ってしまうことがあります。そのような時、私達はどうすれば良いのでしょうか。

私達は第一に、イエス様を友達とする事が必要です。イエス様は、私達が他人との人間関係で傷ついた心を癒して下さいます。私達は、人間関係で傷つけば下手をすると引き籠りになってしまいます。「もう誰とも話したくない」という状態に、誰でも陥るのです。そのような時、イエス様と一緒に時間を過ごせば、イエス様が私達の心を癒し、隣人と関わる為の力を回復させて下さいます。

第二に、マリア様に倣って、日常生活の中の出来事を心に納める習慣を身に付ける事が必要です。それは、先に記した人間関係において、白黒をつけたり、切り捨てたりする思いとは対極の考え方です。それは、一言で言うなら裁かない事、裁きは裁き主であるイエス様に任せる姿勢です。



マリア様は、そのような生き方を貫いて、全人類の母となりました。子供さんが多い御家庭のお母様は、大変です。子供一人一人に心を配るお母さん方の労苦は、計り知れないものがあります。マリア様は、私達、皆のお母様です。イエス様が天に挙げられた後も弟子達と共におられ、母として役割を果たされ、最終的に、イエス様の下での永遠の命の栄光に入られました。私達は、全ての人の母となったり、父となったりすることは出来ないかもしれませんが、全ての人の友となるべく、努める事は出来ます。将来、イエス様とマリア様と共に、永遠の命に深く与る事が出来るよう、お互いに努めて参りましょう。

おめでとうございます！！荘厳誓願式

アウグスチノ修道会 マキシミアノ・マリア・コルベくわほらあつし桑原篤史神学生

2022年5月5日(木・祝) 東京 葛西教会にて

喜びの声

コロナのため人数制限のある中でしたが、幸いにも笹丘の信者代表として出席することができました。以前笹丘教会で行われた松尾神父様の荘厳誓願式は仕事と重なり出席できなかつたため、密かにそのリベンジを期していました。桑原神学生ご本人と神父様方はもとより、ご家族、葛西教会の皆さん、現在ともに学んでおられる神学生の皆さん、列席した誰もが心からの喜びを表しておられ、私自身も喜びにひたる一日となりました。

信者会会長 ヨハネ



柴田神父様の司式で執り行われました



誓願宣立



記念撮影



按手

桑原神学生の晴れやかな姿はアウグスチノ修道会の笹丘教会にとって、大きな喜びです。今後も皆で心を一つにしてお祈りいたしましょう。



Dear トマス・ドワイヤ神父様



笹丘教会での在任期間は 1961～63 年、1971～73 年、1982～90 年、1993～2010 年。その後アメリカに戻られ、現在ペンシルベニア州にある管区本部ヴィラノバの修道院において療養中。今年の 10 月で 90 歳になられます。

今回、ヒルデン神父様がアウグスチノ修道会会議のためアメリカに行かれた際、面会され、笹丘教会の皆のために写真を撮影してくださいました。

2022.6.17



毎年、年賀状をいただいておりますが、今年はそれが来ませんでした。そのことでドワイヤ神父様の健康状態を心配しておりました。ヒルデン神父様がアメリカに渡られることになったので、可能であれば面会をとということで、この撮影が実現しました。(遠山神父様)

身体は随分弱っておられ、言葉もあまり話されなくなっておられるとのこと。

ヒルデン神父様との再会にお喜びの表情が見られます。



少し調子が良い時の写真だそうです。

2022.7.2



4月24日 初聖体おめでとうございます ～神のいつくしみの主日に～



ヨハネ (小学2年生)

うれしかった。



遠山神父様、ヒルデン神父様をはじめ小浜先生、峯先生、カテキスタの方々、周りのお友達、皆様のおかげでこの日を迎えられたことに感謝申し上げます。

長崎より福岡市に転入して8月で2年目を迎えようとしています。主人（マチア）と私は幼児洗礼を受けており、3人の子供たちは長崎の出津教会にて受洗しました。長女の

今回は、長男の初聖体を受けるにあたり、本人自身しか頑張ることのできない乗り切りを、祈る心で見守る体験——大切な大切な歩みの一歩を親子で踏み出すことができました。遠山神父様に勧めていただいた、



家族揃っての感謝の祈り、振り返りを通して、家族の愛の絆もより一層深まりました。温かな後押しをしてくださりありがとうございました。

今後も、祈り合い、思いやって…きめ細やかな心遣いを大切にしていきたいです。笹丘教会の皆さまご家族の上に、神さまからの豊かな祝福がありますように。



テレジア (小4)

アガタ (年長)



コレジオのメンバーも初聖体の祝福を分かち合いました



アグネス

ようこそコレジオの皆さん



コレジオは大神学校に移転しました



信仰のルーツ

～ 自己紹介を兼ねて～



24 班 ヨセフ

みなさま、こんにちは。2021年11月に笹丘教会の一員となりました。

私は、1966年（昭和41年）2月18日に長崎市で生まれました。生まれてすぐ浦上教会で洗礼を受け、中島万利神父様と同じ聖ヨセフの洗礼名をいただきました。母はもともと浦上の地で過ごしており、代々のカトリック信者。父は鹿児島市の出身で、通っていた高校がカトリック系だったため、その時に改宗しました。父は当時から長崎で被爆した永井隆博士を大変尊敬しており、そのことが縁で長崎市へ移り住み、教師として生活することになりました。そして、母と父は浦上の地で出会い、私が生まれることとなりました。

父の勤務先は、聖マリア学院であり、その学校はアウグスチノ修道会が司牧する城山教会とともにあります。わたしも、幼、小、中と城山教会のミサにいつも与り、ヒルデン神父様にもとても優しく接していただきました。この歳でまた、アウグスチノ修道会が司牧する笹丘教会でお世話になるのも、神様のお導きと縁を感じない訳にはいきません。

私のカトリック教徒としての信仰のルーツは、長崎市浦上の地にあります。母は被爆者、父は永井隆博士の本を読み、感銘を受け、私はその影響を強く受けながら育ちました。子ども心に「なぜ神様は原爆投下という残酷な人間の行為をお止めにならないのだろうか？」と、折に触れて疑問に思っていました。今でも明確な答えはありません。が、しかし、そのような境遇の中にあっても、私の周りの人々（特に母の父と母、つまりは私の祖父と祖母）の浦上教会の方を向いていつもロザリオを手に祈りしている姿がありました。そこで私なりにこう考えることにしました。「神様は『人間』をご自身の姿に似せて創造され、愛された」とあるから、人間の自由意志に完全に託されているという結論です。だからこそ、人間が起こす残酷な行為に対しても尊重され、決してお見捨てになることはなく、いつも側にいて下さる存在なのだろう…。これが永井隆博士の本に書かれている“神様の摂理”なのかなと、私の狭い思考でやっと導き出される、私なりの理解です。

皆様の多くの信仰のルーツは、喜びや感動、感激の体験が多いのかもしれませんが。私にとっての信仰のルーツは、私の中にも確かに存在している、残酷さ、醜さ、苦しみ、嘆き、悲しみ、絶望、挫折、痛みです。それらを両手で受け止めることで、喜び、感動、感謝、笑い、楽しさ、そして希望が生まれると私は信じています。

今も戦争やパンデミックと試練は続きますが、希望をいつも心に抱き、皆さまと共に信仰生活を歩んで行きたいと心から思っております。どうぞよろしくお願いいたします。広報委員へ仲間入りもさせていただきました！



お世話になっていますー

司牧実習生 ミカエル やまがしら まきお 山頭 牧夫神学生



来年2月までお世話になる山頭です。

私は、1983年に平戸市（紐差小教区）で生まれ、ニヶ月目に幼児洗礼を受けました。大叔父は福岡でも活躍していた、教育者である山頭源太郎神父です。高校のときに柔道をしていましたが、最近はランニングやテニスを楽しんでいます。現在、福岡カトリック神学院での神学科2年生です。

実は長崎コレジオ（現福岡コレジオ）を卒業後、社会に出て働いておりました。その間、約2年かけて、まき網船で漁船員の仕事をしました。毎月24日間は海の上、6日間は陸（休み）、毎日のスケジュールは夜の間で仕事をして朝から夕方まで休みという、昼と夜が逆転するハードな作業でした。この仕事をやっているうち、神学院に戻るかどうか葛藤しましたが、船の上でまるで新約聖書に書いた通りの仕事をしている私は、マルコによる福音の言葉が心に浮かびました。

「イエスはガリラヤ湖のほとりを通っていたとき、シモンとシモンの兄弟アンドレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは『私に付いて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた」

この体験に加えて、先輩の神父さまに背中を押していただいたこともあり、九州に戻り神学院に入学する決心を固めました。

笹丘教会は明るく元気な教会で、若い方も沢山いてうらやましいです。今後の目標は、教会に来て、少しでも「よかった!」「元気になった!」と感じられるような集まりを、皆さんとつくっていきたいです。怖い顔をしているかもしれませんが、どうぞ遠慮なく話しかけてくださいませ! これからも宜しくお願い致します。



（6月で前半の実習が終わり今は大分教区にいます。10月また戻ってきます）

Q. 山頭源太郎神父様に関して印象深い出来事がありましたら教えてください。

A. 山頭源太郎神父様は、御年97歳になりますが、勉強を毎日続けておられます。そんな方がおっしゃる「勉強に終わりはないよ。」との言葉は本当に重みを感じます。

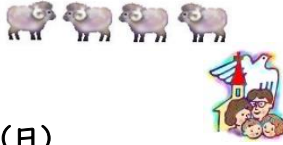
Q. 今年の神学院祭では何を担当されますか？

A. 実行委員を担当しております。要するに何でも屋ですね・・・

神学院祭は、11月3日（木）通常開催です。森山新司教様の講演も予定されています。



行事報告



信者総会 5月8日(日)

39名の参加。議案はスムーズに承認されました。笹丘教会に転入されて間もない方々の熱心な姿勢がうかがえました。



委員の方々の紹介

福岡教区福岡地区女性の会 第39回総会 6月4日(土)

大名町教会大聖堂にて開催。会長川原生子さんの挨拶。開催できた喜びが伝わりました。議案はスムーズに承認されました。その後、アベイヤ司教様のお話がありました。熱意が伝わってきました。



おにぎりの会 6月17日(金)

ホームレスの方々の支援のため、1年ぶりにご飯のパック詰めをしました。6名参加。200パック、美野島司牧センターへ届けました。



夏のミニミニバザー 6月26日(日)

工夫を凝らした作品がいっぱい！今回は人数制限もなく、にぎわいました。バザー献金は教会修繕費、バザー準備金となりました。感謝。



大分教区司教叙階式 7月3日(日)

スルピス森山信三司教様

おめでとうございます！！



森山司教様ミサ
右は幸助祭様

日本の司教団を代表してアベイヤ司教様祝辞





聖人紹介



マキシミリアノ・マリア・コルベ

1894年、ポーランドの貧しい織物職人の家に生まれ、ライモンドと名付けられる。幼いころ、聖母マリアが現れ、白い冠と赤い冠のどちらが欲しいか尋ねられた。―白い冠は純潔のしるし、赤い冠は殉教のしるしであった―ライモンド少年はどちらも欲しい

コルベ神父

と答え、この事は母親以外の誰にも話さなかったという。

16歳の時にコンベンツァル聖フランシスコ会の修道院に入り、マキシミアノという修道名をもらう。ローマに留学していた際に仲間の神学生たちに呼びかけ、聖母マリアのために命がけで働く『聖母の騎士会』を創立した。当時教会を荒らしていたフリー・メーソンを改心させるために聖母マリアの仲立ちとして、自分が全力で働くべきだと思ったからである。それは自分をすべて神と聖母マリアに捧げようとするものだった。



ローマ留学の頃

1918年、24歳で司祭に叙階されたコルベ神父は、聖母の騎士会の月刊誌を発行するために全力を注ぎ、昼夜なく働き続けた。資金集めに苦労したが、そこには必ず聖母の助けがあった。神父の夢であった聖母マリアのための町、ニエポカラノフと呼ばれる「無原罪の聖母の園」も聖母の助けによって実現された。

1930年、コルベ神父はゼノ修道士らと長崎の地に降り立った。日本語が分からぬ中、マリア会の神父達による協力もあり、上陸後1ヶ月で日本語版『聖母の騎士』を発行した。日本での貧しい生活は非常に厳しく、ローマで患った肺結核に苦しめられていたコルベ神父は度々高熱に見舞われ、のちに有名になった永井隆博士に診察をしてもらったこともある。ゼノ修道士が土地を探し出し、日本でも「無原罪の聖母の園」を作ったコルベ神父たちの働きは次第に報われ、洗礼を受ける人や神学生や修道士も出るようになった。聖母の騎士運動は日本人の中に広がり、1932年末、雑誌の発行部数は5万部となった。

1936年、ニエポカラノフの修道院長に任命されたコルベ神父は突然の帰国を命じられる。コルベ神父はじき戦争が始まるであろうと予感していた。1939年第二次世界大戦がぼつ発し、ニエポカラノフも空襲された。1941年2月に神父たちは逮捕され、コルベ神父は5月にアウシュビッツ強制収容所に送られた。16670の囚人番号を刻まれ、地獄のような過酷な労働を強いられても、コルベ神父の聖母への信頼が揺るぐことはなかった。

7月の終わりごろ、コルベ神父のいる第14号棟の一人が脱走したことにより、同じ棟の中から10名に餓死刑が言い渡された。コルベ神父は妻子がいたガイオニチェック氏の身代わりとなり、裸で地下牢へ追いやられた。通常であれば錯乱状態となる餓死室からは祈りと讃美歌が聞こえ、まるで聖堂の様だった、と通訳のブルーノ・ボルコビッツが証言している。2週間生き残ったコルベ神父は最後まで意識があり、フェノールの注射を打たれる際は自ら腕を差し伸べたという。1941年8月14日、聖母の被昇天の前日に息を引き取り、8月15日に火葬された。

友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。

(ヨハネ 15章 13節)



「宣教司牧方針」 ～ 行動への呼びかけ ～



英訳を担当したエドワードさんに聞く

Q1: エドワードさんは、教区から「宣教司牧方針」の英訳を依頼されたとか。英訳を終えられた今、この「宣教司牧方針」が身近に感じられたのではないのでしょうか？どの様にとらえていますか？

A1: 2022年4月17日の復活祭を機に配布された「宣教司牧方針」は、豊富な内容を盛り込んでいます。中には考える材料が沢山あるとともに具体的な「行動」へのヒントも載っています。

Q2: エドワードさんが英訳した「宣教司牧方針」はどこで見ることができるのですか？

A2: 福岡教区のウェブサイト <http://fukuoka.catholic.jp/> にアップされています。バナーをクリックして「Diocesan Pastoral Plan the pdf of the English version」をさらにクリックしたら英語版が表示されます。

Q3: 英訳されるのに、どれくらいの時間を要しましたか？

A3: 翻訳作業そのものだと、約6時間かかりました。司教様との話し合いや訂正・調整の時間を含めると、約8時間だと思います。

Q4: 沢山の項目がありますが、英訳するのに一番難しかったのは、どんなところでしたか？

A4: どの翻訳でも同じですが、日本語原文の微妙なニュアンスを正しく捉えて、それをうまく英語に表現するのが最大のハードルでしょう。司教様の丁寧なご説明などがだいぶ助かりましたので、今回の英訳は本当に「共同制作」でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

Q5: 最後に英訳されたご感想をお聞かせください

A5: 普段の翻訳の仕事（主に政治・経済や医療関係の研究論文）と違って、「宣教司牧方針」は、読みやすく、分かりやすく書いてあることが印象的でした。内容が豊富に盛り込まれているため、若干長いかもしれませんが、とてもやさしい文章なので、日本語原文でも英訳でもお読みになっていただきたいと思います。

エドワードさんありがとうございました。私たちもこの「宣教司牧方針」が更に身近に感じられてきました。

そうですね。特に後半は、「宣教司牧方針を実行するためのヒント」で、一人ひとりの信仰の深まりと教会の活性化に向けて具体的な「行動」への手がかりを挙げています。中には、「互いに支え合う『交わりの教会』となる」「『未来に開かれた教会』となる」などのテーマに沿った「小教区でできること」「個人でできること」などが紹介されています。

「共に歩む自覚を深めるきっかけになれば幸い」とアベイヤ司教様の期待が込められています。

私たちのミサ前の読み合わせも進んでいます。

今後はこの宣教司牧方針に沿って行動を起こしている方々を紹介していきたいと思っております。



教会学校

2022. 7. 10 主日のミサ前

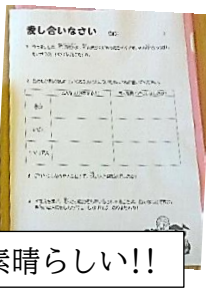


幼児から2年生
低学年用の「こじか」を
参考に先生方のお話を
聞きます。

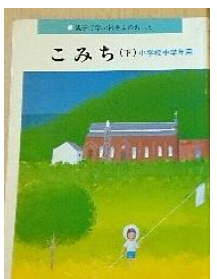
七夕
笹の葉に子供たちの
想いを乗せて…。



3年生から上のお友だち 集中力が素晴らしい!!



長崎教区で編
集された子供
用の公教要理
「こみち」を教
科書として進
めています。



異動・秘跡 (2022年4月～7月)
転入 6月 リジューのテレジア (22班) 西新教会より
帰天 6月14日 アントニオ 享年73歳 (11班)

編集後記
黙想会の時、平田神父様が講話で冒頭に話された「新しい人となりなさい」という言葉が、心に響きました。
自分の若い頃は、とても未熟でしたから、努力して良識があり人前で堂々と自分の意見が言える、そういう人間でありたいと思っていました。権利ばかりを主張して義務を怠る、不平不満ばかり言って、他人のせいにする、そのような人間でいたくないと思い、自分を極めるため、まずは、委員、役員「長」を積極的に引き受けていくことにしました。実力不相応で迷惑をかけてしまうような大きな失敗もありましたが、自分自身はそれを土台として、次、その次、またその次と背伸びをして挑戦してきました。その積み重ねで、今では、小さな集まりくらいだったら、使命感を持ってお世話係をする自分がいます。人の上に立つ経験は、相手の立場を知り、思いやりの心が培われる貴重な経験であると思います。そして良識も備わってくるのではないかと思います。まだまだ難しさを痛感しますが、挑戦しています。
受洗して20年経ちました。信仰心が自分に落ち着きをもたらします。「新しい人となりなさい」は、勇気をもらうみ言葉です。
1班 マグダレナ・マリア

発行：カトリック笹丘教会 広報委員会 2022年8月15日
〒810-0034 福岡市中央区笹丘1-16-1 電話：092-761-4504 fax：092-761-4524